

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 2月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401228		
法人名	医療法人 有心会		
事業所名	グループホーム 南風		
所在地	長崎県南島原市有家町山川 337		
自己評価作成日	平成 25年 12月 16日	評価結果市町受理日	平成 26年 2月 12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット 日本評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階		
訪問調査日	平成 26年 1月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療系のグループホームとして個々の身体能力や心身の状態に応じて効果的な個人ケアを行い、自己決定を尊重し自立支援に向けた取り組みを行っています。一人一人の入居者様に尊厳のある老後を送っていただけるよう支援し、「入居者の個性を尊重し、QOL（生活の質）を高めることにより、生きがいを持って明るい生活を送っていただく」ことを理念に掲げ、「その人のペースに合わせゆっくりと」を介護目標とし、すべての入居者様が毎日笑顔で過ごしていただけるよう職員一同、心のこもった介護をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

個別支援に重点をおいて、入居者のペースにあわせた支援により自分らしさを失うことなく暮らすことができるホームである。近接の医療機関が母体法人であり、24時間協力体制と医療対応の迅速さは入居者、家族の安心と信頼につながり事業所の強みである。リハビリ体操、レクリエーションで楽しみながら体を動かすなどできており、その支援には健康面での安心感がある。入居者の読書をしたり仲間とトランプに興じる時間、静かに部屋で過ごす時間、外気浴の時間などそれぞれ時間の使い方が尊重され、また和気藹々とタオルを畳んだり、調理の手伝いをすることもあり、入居者は自然に役割を持ってホームに自分の居場所を感じておられる。職員は入居者と過ごす時間を楽しみ、職員同士お互いに学び合いながら、

より良い支援に繋げている。管理者は常に課題を見つけ職員と共に支援の質の向上に取り組んでおり、また家族にホームの方針を説明し理解を得て、信頼関係を築いている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として【入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く】を掲げ管理者と職員は、会議や日々のミーティングを通して地域の一員としてその人らしく、関わりを保てるグループホームとして、実践につなげている。	理念に添って、入居者の気持ちに寄り添う支援を心がけ、また居室を個人のプライベートな生活の場と捉え、配慮しながら支援している。入居者は好きな場所で読書やトランプなどを楽しみ、タオルたたみや、調理の下ごしらえなどの手伝いを自分の役割として自分らしく過ごされている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内清掃や町内会の祭事などの地域活動、市町村や警察、消防、地元消防団との連携を積極的に行い事業所自体が地域の一員として、地域活動に参加し交流を深め利用者が地域とのつながりを保てる生活が続けられるよう支援している。	近隣の保育園のお神輿が毎年立ち寄ってくださり、お礼としてお菓子を届けたり、高校や中学校の体験学習の受け入れなど交流の機会を得ている。野菜を届けてくださる近隣の方もおられ、また警察や消防団などの連携も図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られるご家族やご親族、友人の方々や、福祉体験学習の生徒さん達、また、近隣の方々との交流、2ヶ月1回の運営推進会議などにおいて、事業所として、認知症の人の理解や支援方法をわかり易く伝える様になっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議（2ヶ月1回に同法人グループホームと共に実施）では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告に対し、各委員、御家族代表から積極的なご意見や質問を頂き、話し合いを通してサービスの向上に活かしている。	日常的に情報交換の機会の少ない警察署の方から、行方不明の捜索時などに役立つ知識をうかがったり、薬剤師参加による、感染症予防に関するレクチャーがなされている。事業所における活用においてはもちろんのこと、会議参加者へも有益な内容となっている。		

5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当者様とは、日頃から連絡を密に取り、運営推進会議にも参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えている。</p>	<p>市職員に運営推進会議に参加していただき、外部の視点で意見をいただくことができています。普段から連絡を密にとって何でも話せる関係が作られており、説明を受けたり必要に応じた協力が得られている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての独自の身体拘束防止マニュアルが定めてあり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また勉強会を開き職員に周知を行い、職員全員が正しく理解している。</p>	<p>管理者は県の身体拘束委員として率先して取り組んでおり、昨年9月には職員対象に勉強会を実施した。介護のプロとして入居者の状態をまず理解し、落ち着いていただくことを第一とする支援ありきで対応に心がけている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修、島原半島GH連絡協議会の身体拘束廃止、高齢者虐待防止研修に職員が参加。また、職員同士が共にお互いの行動に責任を持ち、虐待を見逃ごす事のないケアをしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、権利擁護、日常生活自立支援事業や成年後見制度について都度、職員に周知を行っている。また施設内研修、島原半島GH連絡協議会研修に参加し制度の理解と活用に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、改定等の際は、理解しやすい言葉で十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図り、契約を締結している。また、解約の際も同様に、十分な説明を行っている。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月1回のケア会議における個々のアセスメントの家族への説明の中で、意見や要望をお伺いし、また、ご意見箱の設置、苦情相談窓口やその他の窓口の情報を掲示し、意見や要望を運営に反映させる体制を整えている。</p>	<p>家族に入居者のアセスメントを見て状況を把握していただいております、その中から家族の意見や希望が伺えています。伺った希望は柔軟に対応し、またケアプランに上げることもある。利用者の希望を取り入れ職員がエブロンを作成するなどした。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、1日3回のミーティング時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者へつなげ運営に反映させている。</p>	<p>職員が意見を言える機会は多く、入居者への支援のあり方や業務の改善や物品の購入などについて意見が交換されて、車イス体重計の購入に繋がった。管理者が職員の意見を吸い上げ法人代表に繋ぐこともできている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況、研修会などへの参加状況の把握に努め、人員確保や労働時間の改善、勤務交代など職場環境・条件の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員の資格取得の奨励や研修などを計画的に行い、必要な研修には勤務内や有給休暇をあて研修を受ける機会を確保している。また、経験を多く積んだ職員が新人職員を指導している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者や職員は島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し同業者同士のネットワーク作りや意見交換、勉強会を行い、サービスの質の向上につとめている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所希望時、本人様と面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、できる限り本人の安心が確保できる関係作りに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用を開始する前に、ご家族に面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、入居希望者の快い環境作りやご家族の安心が確保できる関係作りに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず、本人様とご家族に面談を行い、その方に最良と思われる支援を検討し、「その時」必要とされている支援を見極め援助、本人様、家族の希望に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人尊重を第一に考え、先人の知恵や料理のおいしい食べ方、草木の名前や育て方などを教えていただいたり、食後のお盆、食器ふきや洗濯物の片づけなど一緒に行い、職員も利用者様と同じ目線に立ち、喜怒哀楽を共にし、支えあえる関係をもてるよう支援している。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の施設での生活状況や相談事、悩み事などをご家族様へ報告し、互いに離れた場所で生活をされていても、本人様とご家族の思い、関係を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も近隣の方々やご友人に気軽に訪問して頂けるよう働きかけを行っている。本人が希望される、スーパーや美容室、お墓参り、行きつけのお店などそれぞれの通いなおられたところへお連れしている。	希望に応じて積極的に支援していきたいとしている。入居者にとって最も大切な馴染みである家族には、入居者の希望で家族に電話したり、帰宅の機会を家族と共に計画するなどして、入居者の思いを実現し、精神的安定や満足が得られるよう努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、一人ひとりの気持ちを汲み取りながら利用者同士の関係向上の為、食事の席替え、レクリエーションへの呼びかけ、ドライブへの声かけなど、利用者様同士が関わり合い、支えあえる様に支援をしている。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人、ご家族との関係を断ち切ることなく、面会や自宅への訪問、電話連絡にて経過を伺い、必要に応じて相談・支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	随時、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握について聞き取りを行い、できる限りその方の求めに応じている。困難な場合は、ご家族の方と相談しながら本人本位に検討している。	食事のメニューや調理法について自分の希望を伝えられる入居者は多く、細かく対応できている。身体的症状の訴えや行動から思いを把握することもあり、入居者の思いに沿って支援を行っている。把握した思いについて家族との相談、協力も行っている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人またはご家族から聞き取りを行い、幼少期から現在に至るまでの生活歴やエピソード、入所までの経過等を個人別にバックグラウンドとして記録し把握している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を個人別ケア一覧表に記録。また、排泄記録、1日3回のミーティング、日常記録（特変時の状況記録）等により現状の把握に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、家族の希望をそれぞれ聞き取りを行い、各担当者が記録するアセスメント表を毎月、ご家族に報告している。また毎月のケア会議を行うほか、3か月に1回程度モニタリングを行い、心身の状況に応じて随時見直しを行っている。	職員の意見を聴取して計画作成担当者がアセスメントやケアプランを作成している。必要に応じて医師の意見を仰ぎ、また家族には一目見て理解できるように工夫したアセスメントシートを用意して意見を伺っている。	ケアプランに沿って行った支援について詳細に記録が取られているが、それに比べて入居者の心情の変化や表情の変化を汲み取った記載がやや少ない。入居者のその時々感情や、職員の気づきの記録を厚くすることでケアプランに活かす工夫が望まれる。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個人別ケア一覧表に記録、特別な変化や病院受診の際は日常記録に記録し、ケア会議時に取り上げ、職員間で情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的には事業母体の病院と連携を取り、本人や家族の状況に答えている。また、日々のミーティング、月1回のケア会議において、利用者様のニーズに応じて柔軟なサービスの検討、支援を行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校や保育園等、地元地域の特性を把握し、また、公的機関や各種団体等のそれぞれの地域資源を活用し利用者様一人ひとりにとって安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望に応じて主治医及び、入所以前からのかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	母体の医療法人との24時間の協力体制が整っており、入居者の医療面での期待に応えられている。また島原内であれば入居以前からのかかりつけ医の受診支援も行っている。また、希望に応じて歯科の往診診療が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	池田循環器科内科と医療連携体制を取っており、看護師と相談をしながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。さらに、定期受診を行い、看護職と共に利用者様の体調管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、安心して治療出来るよう、また、早期に退院できるように、個人別に必要なファイルを備え、病院関係者との情報交換や相談を迅速かつ適切に行えるよう準備している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ、重度化した場合や終末期のあり方について本人様・ご家族と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明し、本人様が終末期を迎えた場合には、主治医及び各関係者と連携を取り、チームで支援する体制を整えている。	ホームとして看取りは行っていないが母体である医院との協力のうえ、家族と共に入居者にとって一番良い支援となるよう努めている。医療的処置や終末期として一旦退所された場合でも法人グループとしての支援の継続が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が利用者の急変や事故発生時に対応できるよう訓練している。毎年、大村消防学校へ必ず参加し、その職員が後輩の指導を行っている。また看護師や医療機関との連携も円滑に行えるよう訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の中に昼夜を問わず、あらゆる災害を想定した消防避難訓練を行政、消防署、地元消防団の協力のもと行い、利用者、全職員が避難訓練に共に参加している。また緊急持ち出しファイルを作成し避難訓練時に持ち出している。	普段から避難経路の障害物のチェックや管理者が避難時の心構えを話すなど、災害に備えている。年2回の消防訓練では職員が違った役割をまんべんなく体験できるように配慮し実践に役立つようにしている。	備蓄品に関して一覧表等での管理は行っていない。一元管理で備品に漏れがないか振り返り、また消耗品の入れ替えや賞味期限の確認を効率的に行うことを期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を持って接し、常に誇りやプライバシーを損ねない声かけを行うことに努めている。また時には方言を使って馴染みのある言葉でコミュニケーションをとっている。また広報誌も家族のみに送付している。	親しみの表現を交えながらも、「さん」の呼称など礼節を欠かさない対応がなされている。言葉かけのタイミングと言葉選びに心がけ、家族や第三者の立場で聞かれた際の思いにも配慮し、気づきがあれば管理者より適宜注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりの性格の理解に努め、本人が日常生活の中で思いや希望を表せるよう声かけや話し合いを行い、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、趣味や楽しみ、ゆっくり過ごすなど、その方がその日をどのように過ごしたいのか、できる限りその方の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からお持ちのお洒落着や普段着をお持ちいただき、外出場所に合わせ、その人らしいお洒落を楽しまれている。また、パーマや散髪も希望があれば、通いなれたお店へお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好にあわせ、食事が楽しみなものになるようメニューを変えたり、その人の病気や体調にあわせ、きめ細やかな食事を提供している。また、準備や後片付けを一緒に行っている。	食事への意欲が薄く、摂取困難な入居者には、栄養補完の配慮の上で気分に合わせた好みのものを摂っていただく、その人のペースにあわせた支援を昼食時に見ることができた。地元の旬の食材や手作りのおやつなど自然で安全な食を提供している。	

41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の好みと栄養バランスを考ながら、随時見直しを行いながら食事量や水分量を提供している。また、一人一人の状態や力、習慣に応じてきめ細やかな支援を行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態にあわせ全介助、一部介助、見守りなど本人の口腔状態や力に応じた口腔ケアを行っている。また、外出後、インジ液での口腔ケアを行っている。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分で排泄の管理が難しい方には、排泄チェック表に記録を行い、一人ひとりの力や排泄パターンにあわせた支援、無理強いのない声かけや残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	適切なタイミングの声掛けで排泄の支援を行い、職員の見守りのもと自立支援に繋げている。夜は居室でポータブルトイレを使用する入居者もおられ職員は敏感に反応して支援している。自然な排泄となるよう食事やリハビリ体操で気を配っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、野菜中心で繊維質の多い食材を提供し、飲水については定時に水分補給をして頂き、時には、個人に便秘の原因について説明行っている。また、毎朝のラジオ体操や3分間リハビリ体操で運動を行い、個々に応じた予防に努めている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望の湯加減やタイミングに合わせて、できる限り本人様の希望に沿うような声かけ、支援を行い、入浴を楽しめるようにしている。また、本人様の体調に合わせて、清拭や足浴などを行っている。	入浴は入居者にとって唄を歌ったり職員とゆっくりと話をする楽しい時間となっており、職員は安全確保とともに皮膚の健康状態などにも留意して素早い対応を行っている。ゆず湯や菖蒲湯で季節感を楽しんでいたこともある。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や心身の状況、生活習慣に合わせて、掘りごたつで横になられり、居室で休まれるなど、自由に休息をされている。また、就寝も一人ひとりの生活習慣を把握し、その方に応じた支援を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用について学んでおり、分からないときは個人別のファイルを設け、いつでも管理表を見て学べるようになってきている。また、一人ひとりの氏名を呼んで、その方の顔を確認し確薬を行っている。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、プリンターの水まきやお盆拭き、洗濯物たたみなどの役割やトランプや好きなDVD鑑賞などの楽しみ事など、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援を行っている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、できる限り戸外やドライブに出かけられるよう支援を行っている。また、花見や足湯、地域のお祭りなど家族や地域の人々に協力して頂きながら支援を行っている。	花見や紅葉狩りなど季節に合わせた行事を行ってお入り、中でも初市への外出は入居者にとって大きな楽しみとなっている。また日常的に買い物やドライブなど希望に沿った支援を積極的に行っている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にお金は施設で預かっているが、数名の方は個別にお金を管理されており安心されている。職員も利用者様がお金を持っておきたい理由を理解して支援している。また外出時の買い物など、その方の好みに合わせた支援をしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいと希望があった場合には、支援を行い、聞き取りができない方には、職員が仲介に入り支援を行っている。手紙については、やりとりできるようお手伝いを行っている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、行事ごとの飾り付けを行ったり季節ごとの花を生け、季節を感じて頂けるよう工夫をしている。また、室温や換気などの空調管理やブラインドの調整などを行い、居心地よく過ごして頂けるように支援している。	季節の花を飾り和やかな落ち着いた共用空間としている。エアコンや加湿器をこまめに調節して入居者に最適な環境となるよう努め、また入居者お一人お一人の体感に合うように衣服を調節したりや毛布などを使用し気を配っている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で同じテーブルでの会話、ゲームをされる為の場所の設定、独りでこたつで横になられたりなど自由に過ごして頂けるよう支援を行っている		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人様またはご家族に持ち込みの制限のないこととお話し、使い慣れたタンスや裁縫道具、ご家族の写真や遺影を持ち込まれ、お供え物をされたりなど本人様が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	使い慣れた家具を持ち込み、お好みの小物や写真を飾り、ホームへ入居後、初市への外出の際に入居者自身で購入された鉢植えを飾るなど思いのこもったその人らしい居室とされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで車いすで自由に行き来でき廊下には手すりを設置し安全に移動ができる。また、居室の扉に大きく名前を張るなど配慮を行い、自立した生活を送れるよ支援している。		

V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の	
				2, 利用者の2/3くらいの	
				3, 利用者の1/3くらいの	
				4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある	
				2, 数日に1回程度ある	
				3, たまにある	
				4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と	
				2, 家族の2/3くらいと	
				3, 家族の1/3くらいと	
				4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として【入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く】を掲げ管理者と職員は、会議や日々のミーティングを通して地域の一員としてその人らしく、関わりを保てるグループホームとして、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内清掃や祭事などの地域活動、市町村や警察、消防、地元消防団との連携を積極的に行い事業所自体が地域の一員として、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られるご家族やご親族、友人の方々や、福祉体験学習の生徒さん達、また、近隣の方々との交流などにおいて、事業所として、認知症の人の理解や支援方法を伝えている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告に対し、各委員から質問や積極的なご意見を頂き、話し合いを通してサービスの向上に活かしている。また、議事録に記載し運営推進委員会委員の記名や捺印をいただいている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者様とは、日頃から連絡を密に取り、運営推進会議にも参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての独自の身体拘束防止マニュアルが定められており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また勉強会を開き職員に周知を行い、職員全員が正しく理解している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修、島原半島GH連絡協議会の身体拘束廃止、高齢者虐待防止研修に職員が参加。また、職員同士が共にお互いの行動に責任を持ち、虐待を見逃さず事のないケアをしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>管理者は、権利擁護、日常生活自立支援事業や成年後見制度について都度、職員に周知を行っている。また施設内研修、島原半島GH連絡協議会研修に参加し制度の理解と活用に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、改定等の際は、理解しやすい言葉で十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解・納得を図り、契約を締結している。また、解約の際も同様に、十分な説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月1回のケア会議における個々のアセスメントの家族への説明の中で、意見や要望をお伺いし、また、ご意見箱の設置、苦情相談窓口やその他の窓口の情報を掲示し、意見や要望を運営に反映させる体制を整えている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、1日3回のミーティング時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者へつなげ運営に反映させている。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況、研修会などへの参加状況の把握に努め、人員確保や労働時間の改善、勤務交代など職場環境・条件の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員の資格取得の奨励や研修などを計画的に行い、必要な研修には勤務内や有給休暇をあて研修を受ける機会を確保している。また、経験を多く積んだ職員が新人職員を指導している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者や職員は島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し同業者同士のネットワーク作りや意見交換、勉強会を行い、サービスの質の向上につとめている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所希望時、本人様と面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、できる限り本人の安心が確保できる関係作りに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用を開始する前に、ご家族に面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、入居希望者の快い環境作りやご家族の安心が確保できる関係作りに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず、本人様とご家族に面談を行い、その方に最良と思われる支援を検討し、「その時」必要とされている支援を見極め援助、本人様、家族の希望に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人尊重を第一に考え、先人の知恵や料理のおいしい食べ方、草木の名前や育て方などを教えていただいたり、食後のお盆、食器ふきや洗濯物の片づけなど一緒に行い、職員も利用者様と同じ目線に立ち、喜怒哀楽を共にし、支えあえる関係をもてるよう支援している。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の施設での生活状況や相談事、悩み事などをご家族様へ報告し、互いに離れた場所で生活をされていても、本人様とご家族の思い、関係を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入所後も近隣の方々やご友人に気軽に訪問して頂けるよう働きかけを行っている。本人が希望される、スーパーや美容室、お墓参り、行きつけのお店などそれぞれの通いなれたところへお連れしている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係を把握しながら、孤立されないよう食事の席やテレビの位置、レクリエーションを行うなど、利用者様同士が関わりを持ち、支え合えるような関係を持てるよう支援を行っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人、ご家族との関係を断ち切ることなく、面会や自宅への訪問、電話連絡にて経過を伺い、必要に応じて相談・支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	随時、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握について聞き取りを行い、できる限りその方の求めに応じている。困難な場合は、ご家族の方と相談しながら本人本位に検討している。		

24	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時、本人またはご家族から聞き取りを行い、幼少期から現在に至るまでの生活歴やエピソード、入所までの経過等を個人別にバックグラウンドとして記録し把握している。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を個人別ケア一覧表に記録。また、排泄記録、1日3回のミーティング、日常記録（特変時の状況記録）等により現状の把握に努めている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望、家族の希望をそれぞれ聞き取りを行い、各担当者が記録するアセスメント表を毎月、ご家族に報告している。また毎月のケア会議を行うほか、3か月に1回程度モニタリングを行い、心身の状況に応じて随時見直しを行っている。</p>		
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録を個人別ケア一覧表に記録、特別な変化や病院受診の際は日常記録に記録し、ケア会議時に取り上げ、職員間で情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療的には事業母体の病院と連携を取り、本人や家族の状況に答えている。また、日々のミーティング、月1回のケア会議において、利用者様のニーズに応じて柔軟なサービスの検討、支援を行っている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の中学校や保育園等、地元地域の特性を把握し、また、公的機関や各種団体等のそれぞれの地域資源を活用し利用者様一人ひとりにとって安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望に応じて主治医及び、入所以前からのかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	池田循環器科内科と医療連携体制を取っており、看護師と相談をしながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。さらに、定期受診を行い、看護職と共に利用者様の体調管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、安心して治療を出来るよう、また、早期に退院できるよう、個人別に必要なファイルを備え、病院関係者との情報交換や相談を迅速かつ適切に行えるよう準備している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ、重度化した場合や終末期のあり方について本人様・ご家族と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明し、本人様が終末期を迎えた場合には、主治医及び各関係者と連携を取り、チームで支援する体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が利用者の急変や事故発生時に対応できるよう訓練している。毎年、大村消防学校へ必ず参加し、その職員が後輩の指導を行っている。また看護師や医療機関との連携も円滑に行えるよう訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の中に昼夜を問わず、あらゆる災害を想定した消防避難訓練を行政、消防署、地元消防団の協力のもと行い、利用者、全職員が避難訓練に共に参加している。また緊急持ち出しファイルを作成し避難訓練時に持ち出している。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を持って接し、常に誇りやプライバシーを損ねない声かけを行うことに努めている。また時には方言を使って馴染みのある言葉でコミュニケーションをとっている。また広報誌も家族のみに送付している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりの性格の理解に努め、本人が日常生活の中で思いや希望を表せるよう声かけや話し合いを行い、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、趣味や楽しみ、ゆっくり過ごすなど、その方がその日をどのように過ごしたいのか、できる限りその方の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からお持ちのお洒落着や普段着をお持ちいただき、外出場所に合わせ、その人らしいお洒落を楽しまれている。また、パーマや散髪も希望があれば、通いなれたお店へお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好にあわせ、食事が楽しみなものになるようメニューを変更したり、その人の病気や体調にあわせ、きめ細やかな食事を提供している。また、準備や後片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の好みと栄養バランスを考ながら、随時見直しを行いながら食事量や水分量を提供している。また、一人一人の状態や力、習慣に応じてきめ細やかな支援を行っている。		

42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態にあわせ全介助、一部介助、見守りなど本人の口腔状態や力に応じた口腔ケアを行っている。また、外出後、イソジン液での口腔ケアを行っている。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分で排泄の管理が難しい方には、排泄チェック表に記録を行い、一人ひとりの力や排泄パターンにあわせた支援、無理強いのない声かけや残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、野菜中心で繊維質の多い食材を提供し、飲水については定時に水分補給をして頂き、時には、個人に便秘の原因について説明を行っている。また、毎朝のラジオ体操や3分間リハビリ体操で運動を行い、個々に応じた予防に努めている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望の湯加減やタイミングに合わせて、できる限り本人様の希望に沿うような声かけ、支援を行い、入浴を楽しめるようにしている。また、本人様の体調に合わせて、清拭や足浴などを行っている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や心身の状況、生活習慣に合わせて、掘りごたつで横になられり、居室で休まれるなど、自由に休息をされている。また、就寝も一人ひとりの生活習慣を把握し、その方に応じた支援を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用について学んでおり、分からないときは個人別のファイルを設け、いつでも管理表を見て学べるようになっている。また、一人ひとりの氏名を呼んで、その方の顔を確認し確薬を行っている。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、プリンターの水まきやお盆拭き、洗濯物たたみなどの役割やトランプや好きなDVD鑑賞などの楽しみ事など、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援を行っている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、できる限り戸外やドライブに出かけられるよう支援を行っている。また、花見や足湯、地域のお祭りなど家族や地域の人々に協力して頂きながら支援を行っている。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は施設で預かっているが、数名の方は個別にお金を管理されており安心されている、職員も利用者様がお金を持っておきたい理由を理解して支援している。また外出時の買い物など、その方の好みに合わせた支援をしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいと希望があった場合には、支援を行い、聞き取りができない方には、職員が仲介に入り支援を行っている。手紙については、やりとりできるようお手伝いを行っている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、行事ごとの飾り付けを行ったり季節ごとの花を生け、季節を感じて頂けるよう工夫をしている。また、室温や換気などの空調管理やブラインドの調整などを行い、居心地よく過ごして頂けるように支援している。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で同じテーブルでの会話、ゲームをされる為の場所の設定、独りでこたつで横になられたりなど自由に過ごして頂けるよう支援を行っている		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人様またはご家族に持ち込みの制限のないこととお話し、使い慣れたタンスや裁縫道具、ご家族の写真や遺影を持ち込まれ、お供え物をされたりなど本人様が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで車いすで自由に行き来でき廊下には手すりを設置し安全に移動ができる。また、居室の扉に大きく名前を張るなど配慮を行い、自立した生活が送れるよ支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない